

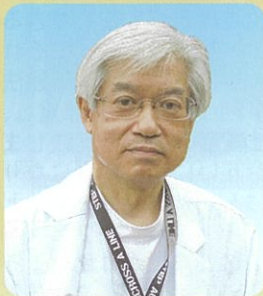
やまだんの 山田野

54

独立行政法人 北陸病院
国立病院機構

〒939-1893 富山県南砺市信末5963
TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

新年のごあいさつ



病院長
坂本 宏

新年あけましておめでとうございます。皆さまには健康やかに新年をお迎えのこととこころよりお慶び申し上げます。

ここ富山県南砺市では、いつものように12月初めより八乙女山や医王山の頂にうっすらと白い冬が訪れました。雲交じりの冷たい風のなかでも、歳の市に集う人々にはマスク越しながら心なし

か安堵感が漂っています。コロナ陽性者が一日平均100人を超える週が続いた8月の富山県、それが遠い昔のような気がするほどに感染者の発表が少なくなり、12月中旬の現時点で2週間以上ゼロが続いています。

しかし、世界はオミクロン株という新たな変異ウイルスに慄いており、医療現場を預かる者としては決して安心できる状況ではありません。これも、2019年12月8日に中国武漢で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による肺炎を発症したと発表されたことから始まりました。わが国では、2020年2月3日にダイヤモンド・プリンセス号が寄港した横浜での検疫で10名にウイルスが検出され、その後、同年4月15日までに712名の感染、14名の死亡が確認され、外部から対策に参加した9名にも感染が及びました。

2020年1月29日封鎖された武漢からの初便チャーター機帰国者のうち、ウイルス検査で陰性者は埼玉県和光市にある国の施設で健康観察期間を過ごすことになり、その後DPAT(災害精神医療派遣チーム)が要請され、2月2日から3月3日まで施設やクルーズ船関連で延べ552名が活動しました。2月29日、厚労省、富山県、国立病院機構から要請を受けて当院からDPAT3名が派遣され、3月2日には前日のPCR検査結果で職員含め帰国者全員の陰性が確認されたのち、3月3日にDPAT活動は終了となって私たちも当日夕には無事帰院しました。皆は安堵の空気に包まれていましたが、その一月ほど後にまさかの出来事が待っているとは誰一人知る由もありませんでした。

2020年3月30日夜、都道府県別では43番目、富山県では初めての感染者が確認されました。同人からは、

その日の午前中に『コロナ疑いで検査入院した』と濃厚接触者である当院職員に連絡があり、当人からすぐに当院へ報告がありました。緊急の対策会議を開き、①砺波厚生センターへその旨連絡したところ、まだセンターは把握していませんでした。②本人から院内の行動を詳細に尋ねて、勤務病棟や自宅等の消毒を開始し、③濃厚に接触したと思われる職員や患者を洗い出して(患者3名、職員1名)、④職員には自宅待機を指示し、⑤患者は個室へ移し健康管理を開始しました。⑥国立病院機構東海北陸グループへ報告して、新たな勤務体制を構築。⑦その後厚生センターから折り返して連絡があり、当人の砺波総合病院への検査入院の指示および濃厚接触者の追跡依頼があり、夕方入院及びPCR検査を受け、⑧その結果が出る前、20時20分に当初の友人が陽性であったこと(富山県で最初)が判明しました。

3月31日朝、職員の感染を想定しての対応策を検討し、その後9時15分に県健康課から当人が陽性であると連絡を受け、直ちに診療活動を一部制限することになりました。続いて10時過ぎには県から『13時から記者会見を開くので発表内容をすり合わせたい』旨打診あり、院長判断で病院名、職名、勤務内容、病院の対応等についての公表を了解しました。事務部長にはグループから『マスコミ対応は全て県を通じるスタンス』と助言されていましたが、県の会見後に病院へ駆けつけたマスコミ等の対応でてんやわんや(院長は背中を見せられず玄関先でTVに映り、『職員の心情を案じ、厚生センターや県の指示を受けて院内感染を防ぐ旨』を話し、事務部長は新聞社3社と面談)となり、病院名が公表されたことで、県民からの怒り・苦情や問い合わせの電話も多数となりました。厚生センターへは当院の濃厚接触者およびその疑いがある者等のPCR検査を依頼し、センター職員がキット持参、18時前に当院で12名の検体採取を当院内科医によって実施し、県衛生研究所へ送りました。

4月1日、翌日には職員家族の出勤停止・登園拒否・介護サービス利用拒否、他病院で受診拒否されたり、委託先や清掃・洗濯・給食業者などから当院での業務中止宣告など四面楚歌となりました。午後には名古屋のグループから参事と看護専門職が派遣され、対策本部を設置して対応にあたり、当該病棟の職員や患者など順次PCR検査を実施(当時の富山県の検査能力は1日

40 検体まで)。陽性者が出現した場合の対策検討、必要物品の確保(機構内の他病院から支援をいただきました)、院内外への情報発信、当人のサポート、心理相談窓口の設置、委託業者への対応などを検討し実行。19 時 12 分厚生センターから昨日採取した 12 名全員陰性の連絡あり。歓声もあがるが、最終接触から 2 週間の健康観察・自宅待機等を継続するようとの指示があり、戦時体制は維持することにして、病院ホームページにて経過と対策などを発表。さらに、翌 2 日には金沢医療センターから感染対策チームの来訪を受け、院内全体の感染防止および現場での細やかな実地指導をいただきました。病院への厳しい目が注がれる一方で、認知症の人と家族の会・富山県支部から記者会見に対して、『とても感動しました。『ショックを受けている看護師をしっかりとフォローしたい』と言われたこと、『さすがだ』とみんな喜んでいました』との葉書を、近隣の住民からは激励の言葉もいただきました。

4 月 9 日には計 66 検体(濃厚接触者の再検含む)全ての陰性が判明し、制限していた病院の診療活動を 4 月 13 日から通常に戻すことをホームページにて報告しました。その 4 月 9 日には富山市民病院でのコロナ感染が報道されました。3 月 30 日から 4 月 8 日までに富山県では 15 名となっていました。感染者の治療を行っている県内有数の総合病院での院内感染であり、全県民の注目を集めました。さらにその後に関わった管理者の涙の会見は全国放送となり、COVID-19 と戦う病院・医療者の苦渋がクローズアップされ、人々の視線に大きな変化が起きました。当院を襲った嵐も驚くほど静かになり、そうして、富山県の第 1 波は 5 月中旬に終わりました(5 月 19 日～7 月 1 日陽性者ゼロ)。当該職員も 1 か月以内には職場復帰できて院内感染は起こらず、結果的に当院を守っていただいたものと感謝しています。そして、2021 年 12 月現在、理由は明らかにされてい

ませんが 1 日最高 140 名の陽性者を 8 月 17 日に記録した第 5 波も収まっています。昨年 3 月末に経験した嵐から現在まで約 1 年 9 か月間、毎朝対策会議を開きながら幾たびかの危機はありましたが、幸いにも入院者および職員に COVID-19 感染者は出ていません。さらに感染防止に対する意識が高まりノロウイルスなどの院内感染も起こっていません。職員皆の日々の努力の賜物と感じております。このように当院も巻き込まれた第 1 波では、砺波厚生センターや南砺市、富山県などの行政機関、同じ国立病院機構の多くの病院、東海北陸グループや機構本部、そして出入りの業者や地域住民の皆様など多くの方々から多大なご支援をいただきました。コロナで分断された事例の報告が多い中、却って絆が深まり一人ひとり助け合いのところが表れているように感じます。あらためて皆様方にこそより深く感謝申し上げます。

しかし、感染力が強力と言われるオミクロン株の拡散や第 6 波への備えなど医療現場はとても安心できる状況ではなく、当院職員も皆日々緊張感をもってそれぞれの役割に取り組んでいるところです。2004 年独法化時に作成した基本理念である『生命と人権を尊重し、思いやりに満ちた医療を良心と誠意をもって実践します』にあるように、職員一同がお互いに相手の身になり思いやる『恕』のころを大切にしながら前進していくことを希望します。

最後に、皆さまにとりまして幸多い年になりますよう祈念しまして年頭のご挨拶といたします。どうぞ今年もあたたかいご支援とご助言をこそよりお願い申し上げます。

2022 年 1 月吉日



精神科医師
川尻 良太

2020 年の 9 月から北陸病院へ勤務することとなりました川尻です。昨年度は高松病院に勤務し、急性期から慢性期まで、幅広い疾患を担当させて頂きました。今年度は 4 月から金沢大学附属病院に勤務し、摂食障害や、精神科リエゾン、新型コロナウイルス陽性の精神疾患患者など、単科の精神病院では中々難しいことを経験することができました。異動に伴って毎回異なった患者層を担当することができ、毎日が勉強の日々です。

まだまだ経験も足りないと思いますが、これからも精進したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



精神科医師
湯浅 慧吾

令和 3 年 10 月より赴任しました、湯浅慧吾と申します。精神科としては今年で 3 年目になります。主に総合病院精神科を経験させて

いただき、精神科中心の病院は今回が初めてとなります。急性期の方はもちろん、今まではご紹介する側だったような方々について、その後の治療を担当する上で長期的な視点も養いたいと考えております。また、当院は北陸唯一の医療観察法病棟を備え、そちらでの経験も大変貴重であると感じております。制度自体にも不慣れで日々勉強なのですが、頼もしい他職種の方々がたくさんおられ、助言して下さること感謝致します。

私生活では最近子犬を迎えました。様子見のつもりで訪ねたペットショップで目が合い、名前が浮かび、familyになる意思を汲み取ってこのような運びとなりました。社会性を育み、家族の一員となるべく、時には甘やかしたい衝動を抑えながらパパとして関わっていきたいと考えています。育て方のアドバイスなどございましたら是非お待ちしております。

合同文化祭

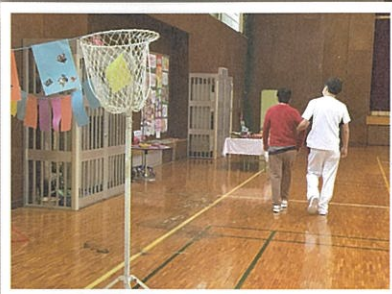
北陸病院

2021年10月20日～21日

当院では、去る10月20日、21日に合同文化祭が開催されました。
コロナ禍での開催となり、参加人数は制限させていただきました。
入院中の患者様には面会、外出制限が長期にわたっており、ストレスフルの中、
少しでも楽しい時間をすごせるようにスタッフの願いを込めて開催しました。

1日目 作品展示

各病棟、デイケアで制作してきた作品を体育館に展示しました。
それぞれ創意工夫され、一生懸命作られた素敵な作品ばかりでした。



2日目 日本舞踊

いつもお世話になっている「かをる会」の日本舞踊の鑑賞会を開催しました。優雅な舞を鑑賞し、患者さんと楽しい時間を過ごし、楽しむ姿や、たくさんの笑顔で、職員も元気をいただきました。



患者さん同士距離をとり、
3密を避けて、感染対策を実施し、
開催させていただきました！

コロナ禍での開催ゆえに実施を悩みながら企画しましたが、実際開催して本当に良かったと心から感じています。これから楽しい行事を安全に実施できるよう工夫し、有意義な行事運営に努めてまいります。ウィズコロナで！！

南2階病棟師長 井上 泰子

外来担当医表

※10月より下記に変更

項 目	月	火	水	木	金
精神科（初診）	石橋・市川	川尻・市川	池田・白石	湯浅・坂本	北村・坂本
精神科（再診）	川尻・白石	白石・池田	石橋・湯浅	市川・北村	池田・市川
脳神経内科	吉田	小竹		吉田・小竹	小竹
内 科	渡辺	渡辺	（渡辺）	（渡辺）	森腰（渡辺）
心療内科			白石		
睡眠外来（初診）			細川	1・3細川、2・4古田	
睡眠外来（再診）	吉田	細川	細川		
専 門 外 来	もの忘れ外来（吉田・坂本・市川・石橋） パーキンソン病外来（吉田・小竹） 遺伝カウンセリング外来（小竹） 認知行動療法外来（うつ、不眠）（白石）		重症心身障害児＜者＞外来（石崎・池田） 禁煙外来（白石） 認知症セカンドオピニオン外来（吉田） ぐっすり外来（白石）		

●診察は完全予約制となっております。地域医療連携室にご相談ください。

●受付時間・・・8:30～11:30 診療時間・・・9:00～12:00

【地域医療連携室 直通電話】 **0763-62-1950**

新コーナー

我が家の一員紹介

ミカンちゃん（オカメインコ）

2017年に生まれて我が家にやって来た、頬の赤いいわゆるオカメ模様の無い、ホワイトフェイスという種類のオカメインコです。ものすごく人懐こく好奇心旺盛で、鳥かごから出して放鳥している時はずっと人間の肩に乗っており、料理や洗濯などの家事に付き添ってくれたり、一緒に昼寝したりもします。もちろん室内を元気に飛び回りますが、てくてくパタパタと歩いて寄ってくる、首をかしげるなどの可愛い仕草や、枯れ草のような優しいにおいと温かさに癒されます。



【交通アクセス】

◆交通機関

JR城端線、城端駅より、タクシーで約5分。

◆高速道路

東海北陸自動車道、福光ICより約5分。

◆南砺市コミュニティバス

JR城端駅・福光駅より出ています。



独立行政法人 国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963

TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

ホームページ <https://hokuriku.hosp.go.jp/>

認知症疾患医療センター

睡眠医療センター

【編集・発行】北陸病院

【広報担当】池田・山崎・岡島・梅村